令和4年度　教育委員会　目標宣言

教育次長 太田和行、主幹 鈴木華奈子

1. 目標宣言

①	読解力育成の視点で授業づくりに取り組むことで、先生に「教えてもらう授業」から児童生徒が「自ら学ぶ」授業への授業改善を図ります。
②	燕市GIGAスクール構想の充実期として、ICTを個別最適な学び、協働的な学びを充実させるためのツールとして活用を推進します。
③	子育て世代に長く愛されるような施設の整備に向け、今年度は、遅滞なく用地を取得し、公募型プロポーザルにより施設設計事業者を選定します。
④	「健康・スポーツ都市」を目指し、市民が継続的にスポーツや運動を楽しむことができる環境の維持と新たなニーズを捉えた環境の整備を行います。

（第2次燕市総合計画等における達成目標）

指　標　項　目	基 準 値（年度）	中間目標値（R1年度）	目 標 値（R4年度）	該当する目標宣言
全国標準学力検査（NRT）偏差値 平均50以上の中学1～3年生の教科の数（国語・数学・英語） ※中学1年生の英語を除く全8教科	2 教科（中1） 3 教科（中2） 1 教科（中3） 計6 教科 （H27年度）	8教科 （全教科）	8教科 （全教科）	①・②
「学校に行くのは楽しい」と回答した小学6年生と中学3年生の割合	小学校89.0% 中学校84.4% （H27年度）	小学校90.0% 中学校85.0%	小学校92.0% 中学校87.0%	①・②

2. 今年度の取り組み

No.	今年度の目標設定						取組結果	
	現状と課題	具体的な取組内容	目標指標				達成状況	評価
			指標名	現状値	目標値	実績値		
①	(1)全国学力・学習状況調査の結果では新潟県、全国と同程度、あるいは下回る結果となっています。教科書やテストの問題を正しく読み取ること、お互いの考えを伝え合い、理解し合うことに課題があると分析しています。 (2)全国学力・学習状況調査での「授業の内容はよく分かるか」の質問に対して、肯定的な回答が8割を超え、新潟県、全国を上回っていますが、結果に結びつかない現状を踏まえ、先生に「教えてもらう授業」から児童生徒が「自ら学ぶ授業」への授業改善が必要です。 (3)協働的な学びを充実させ、学びに向かう意欲を向上させるために、児童生徒同士が良好な人間関係を結び、安心できる学級づくりを行うことが必要です。	(1)各校は研究テーマや研修体制に読解力育成の視点を取り入れ、授業改善に取り組みます。さらに、中学校区の小中学校を研究グループとして、各校の取組を提案し合い、意見交換し合うことでよりよい授業づくりを目指し、小中の先生が一緒に学区の児童生徒の学習意欲喚起、学力向上に取り組みます。 (2)教職員の指導力向上研修を読解力育成の視点で繋ぎ合わせ、教職員が広い視野で授業改善に取り組むことができるようサポートします。対面式、オンライン、オンデマンドを組み合わせ、教職員の研修に参加しやすい体制づくりを工夫します。 (3)Q-U検査の結果分析を活用し、望ましい人間関係づくりを目指して学級経営、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指す授業改善に取り組みます。	「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたか」肯定的な回答の割合	小学校 72. 0% 中学校 69.3% （R3年度）	小学校 75%以上 中学校 75%以上	小学校 86% 中学校 76%	(1)全ての小中学校が読解力育成の視点を取り入れた授業づくりに取り組み、研究会を開催し、授業を公開し自校の研究を提案しました。中学校区ごとに小中の教員が授業づくりについて協議し合い、よりよい授業づくりをテーマに意見交換を行いました。11月22日には燕西小学校にて全体研修会を実施し、授業公開と新井紀子氏による講演会を行いました。市内小中学校の教員約100名が参加をしました。 (2)指導主事が各校に2回の定例訪問を行い、全ての学級の授業を参観（通覧）しました。それぞれの授業に対して、指導の工夫やよさについて、写真とコメントを組み合わせたシートにまとめ、授業者（教員）に送付しました。教員の意欲を喚起し、授業改革に意欲的に取り組むことを促しました。また、各校への訪問の様子を「学校訪問レポート」として市ホームページに掲載し、各校の様子を市民に周知しました。 (3)各校においてはQ-U検査の結果や生活アンケートを活用して教育相談を実施するなど、児童生徒の理解に務め、一人一人に寄り添った指導や対応を行いました。次年度は、各校がそれぞれの実態に応じて、児童生徒の理解、よりよい人間関係づくり、教員の指導対応の方法などを選択できるよう体制を整えていきます。	4
			「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」肯定的な回答の割合	小学校 86.0% 中学校 89.4% （R3年度）	小学校 90%以上 中学校 90%以上	小学校 93% 中学校 91%		
			集合研修とオンライン研修を組み合わせた研修の割合	32% （R3年度）	50.0%	33%		
			Q-U検査における学校生活満足群に属する児童生徒の割合	小学校 74% 中学校 70% （R3年度）	小学校 77%以上 中学校 73%以上	小学校 79% 中学校 69% （2回目）		

〈評価区分〉 5：取組によって想定（目標値）以上の成果が得られた　4：取組のすべてを実施し、見込通りの成果をあげた（期待通りの成果物が得られた）　3：取組のすべてを実施した　2：取組方針等を策定した　1：協議・検討中

令和4年度　教育委員会　目標宣言

教育次長 太田和行、主幹 鈴木華奈子

1. 目標宣言

①	読解力育成の視点で授業づくりに取り組むことで、先生に「教えてもらう授業」から児童生徒が「自ら学ぶ」授業への授業改善を図ります。
②	燕市GIGAスクール構想の充実期として、ICTを個別最適な学び、協働的な学びを充実させるためのツールとして活用を推進します。
③	子育て世代に長く愛されるような施設の整備に向け、今年度は、遅滞なく用地を取得し、公募型プロポーザルにより施設設計事業者を選定します。
④	「健康・スポーツ都市」を目指し、市民が継続的にスポーツや運動を楽しむことができる環境の維持と新たなニーズを捉えた環境の整備を行います。

（第2次燕市総合計画等における達成目標）

指　標　項　目	基 準 値（年度）	中間目標値（R1年度）	目 標 値（R4年度）	該当する目標宣言
全国標準学力検査（NRT）偏差値 平均50以上の中学1～3年生の教科の数（国語・数学・英語） ※中学1年生の英語を除く全8教科	2 教科（中1） 3 教科（中2） 1 教科（中3） 計6 教科 （H27年度）	8教科 （全教科）	8教科 （全教科）	①・②
「学校に行くのは楽しい」と回答した小学6年生と中学3年生の割合	小学校89.0% 中学校84.4% （H27年度）	小学校90.0% 中学校85.0%	小学校92.0% 中学校87.0%	①・②

2. 今年度の取り組み

No.	今年度の目標設定					取組結果	
	現状と課題	具体的な取組内容	目標指標			達成状況	評価
			指標名	現状値	目標値	実績値	
②	(1)GIGAスクール構想が本格実施され、各校の取組が進められています。小学校高学年に向けて活用が進みますが、中学校で活用頻度が低下する傾向が見られます。定例学校訪問などでの提案を各校に紹介し、共有を図るなど、働きかけが必要です。 (2)ICTの活用に苦手意識を持つ教員や、他の自治体から転入（クロームブックを使用したことがない）した教員へのサポートが必要です。 (3)学習指導と校務の両面において、ICTの活用が進められるよう啓発し、情報共有の場をつくることが必要です。	(1)児童生徒の個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るためのツールとしてタブレット端末の活用を推進します。各校には、学校訪問での指導、リーフレットやホームページを活用した情報共有など、活用に向けた働きかけを継続的に行います。また、学校の内外での学びを繋ぐために、タブレット端末の持ち帰りを開始します。各学校は家庭学習での活用を進め、有効な活用方法については各校に情報提供を行います。 (2)ICT支援員を活用し、転入職員対象、希望者対象等、コースを設定して研修会を計画します。教職員のクロームブックの学習指導、校務での活用を支援します。 (3)教職員用HP「つばめつながる広場」を情報の発信、共有の場として活用します。また、学校教育課から各校に発出される文書をHPで閲覧、ダウンロードできるようにするほか、GIGAスクール通信を月に1回を目安に発行し、情報提供、共有を図ります。GIGAスクール通信などは燕市HPにも公開します。	授業中に自分で調べる場面でPC・タブレット等のICT機器の活用（週1回以上）	－	小学校 50%以上 中学校 50%以上	小学校 44% 中学校 31%	(1)クロームブックの持ち帰りの実施により、やむを得ない事情で登校ができない児童生徒がオンライン授業等を受けることができるようになり、悪天候による臨時休業等の際にも学校と家庭を繋ぎ、安否確認や連絡等を行える体制をとることが可能となりました。各校においては、授業での活用が進められらていますが、学校間の差も見られているので、活用例等の情報共有を継続していく必要があります。 (2)ICT支援員によるクロームブック活用研修を中学校区ごとに開催したり、管理職を対象にニーズに応じた内容の研修にしたりするなど、参加しやすく、実用的な研修となるよう工夫しました。また、各校のICT担当者会議を定期的に開催し、課題の共有や正しい活用方法の周知などに努めました。 (3)教員研修のオンライン実施（オンライン・オンデマンド）とともに、授業実践例（中学校区研究会、若手教師塾）を教員用HP「つばめつながる広場」に公開し、教職員の授業改善、授業づくりの一助となるようにしています。さらに、活用しやすいものとなるように工夫していきます。	4
			学級の生徒と意見交換する場面でPC・タブレット等のICT機器の活用（週1回以上）	－	小学校 50%以上 中学校 50%以上	小学校 31% 中学校 24%	
			自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレット等のICT機器の活用（週1回以上）	－	小学校 50%以上 中学校 50%以上	小学校 51% 中学校 42%	
			燕市ICT支援員が行う研修会の回数	－	30回	42回	
			GIGAスクール通信の発行回数	10回	12回	17回	
			学習の中でPC・タブレット等のICT機器を使うのは勉強の役に立つとい思いますか。	小学校 72.4% 中学校 65.5% （R3年度）	小学校 80%以上 中学校 80%以上	小学校 81% 中学校 83%	

〈評価区分〉 5：取組によって想定（目標値）以上の成果が得られた　4：取組のすべてを実施し、見込通りの成果をあげた（期待通りの成果物が得られた）　3：取組のすべてを実施した　2：取組方針等を策定した　1：協議・検討中

令和4年度　教育委員会　目標宣言

教育次長 太田和行、主幹 鈴木華奈子

1. 目標宣言

①	読解力育成の視点で授業づくりに取り組むことで、先生に「教えてもらう授業」から児童生徒が「自ら学ぶ」授業への授業改善を図ります。
②	燕市GIGAスクール構想の充実期として、ICTを個別最適な学び、協働的な学びを充実させるためのツールとして活用を推進します。
③	子育て世代に長く愛されるような施設の整備に向け、今年度は、遅滞なく用地を取得し、公募型プロポーザルにより施設設計事業者を選定します。
④	「健康・スポーツ都市」を目指し、市民が継続的にスポーツや運動を楽しむことができる環境の維持と新たなニーズを捉えた環境の整備を行います。

（第2次燕市総合計画等における達成目標）

指　標　項　目	基 準 値（年度）	中間目標値（R1年度）	目 標 値（R4年度）	該当する目標宣言
全国標準学力検査（NRT）偏差値 平均50以上の中学1～3年生の教科の数（国語・数学・英語） ※中学1年生の英語を除く全8教科	2 教科（中1） 3 教科（中2） 1 教科（中3） 計6 教科 （H27年度）	8教科 （全教科）	8教科 （全教科）	①・②
「学校に行くのは楽しい」と回答した小学6年生と中学3年生の割合	小学校89.0% 中学校84.4% （H27年度）	小学校90.0% 中学校85.0%	小学校92.0% 中学校87.0%	①・②

2. 今年度の取り組み

No.	今年度の目標設定					取組結果		
	現状と課題	具体的な取組内容	目標指標				達成状況	評価
			指標名	現状値	目標値	実績値		
③	季節や天候に関わらず、子どもたちが思いっきり遊べる「全天候型子ども遊戯施設」の整備を望む市民の声が以前よりあることから、こうした市民からの要望に応え、本市の子育て支援策の優位性をさらに高めていく必要があります。	(1)用地取得については、仮契約を順次進め、6月議会定例会に土地取得の議案を提案します。土地取得後、造成工事を開始します。 (2)公募型プロポーザルについては、6月中旬から開始し、第一次審査を7月中旬、第二次審査（公開プレゼンテーション）を8月下旬に実施し、9月下旬の決定を目指します。 (3)類似施設における運営事業者のノウハウやオープン後の課題などの状況を把握し、その対応について設計段階からの反映に努めます。	優先交渉権者の決定時期	－	令和4年9月	令和4年9月	(1)用地取得については、6月議会定例会において議案の議決を受け、登記名義の変更を完了しました。 (2)公募型プロポーザルについては、県内外からの応募事業者を対象に、書類審査や公開プレゼンテーション、ヒアリング審査を行い、設計事業者を決定しました。 (3)類似施設における運営事業者のノウハウやオープン後の課題などの状況を把握し、その対応について設計段階から反映するため、こども創造センター（新潟市）、わくわくhills（阿賀野市）、めごぷらざ（福島県喜多方市）、いーてらす（新潟市）を視察しました。 (4)利用者の思いを設計に反映させた施設にするため、事業者からの提案である子育て世代を対象としたワークショップを開催しました。 (5)施設用地の造成工事を開始しました。	4
④	野球やテニス等の屋外競技施設、バスケットボールや卓球等の屋内競技施設、プールやトレーニングジム等の健康増進施設など、当市におけるスポーツ・運動施設は比較的充実しており、今後も利用状況に即した環境の維持が求められます。 一方で、東京オリンピックなど、近年日本人選手が世界で活躍することで競技人口が増えてきたスケートボード等の種目については、従来から親しまれてきた競技等に比べて活動場所に限りがあります。	【吉田トレーニングセンター大規模改修】 機械設備の納期遅延等により、11月のリニューアルオープンは厳しいものの、年度内の極力早い時期でのリニューアルオープンを目指します。 【スケートボード場整備】 ・設計については有識者等の意見を参考に7月末までに完了します。 ・6月定例会（最終日）議員協議会で現在の状況について説明します。 ・工事については8月着手、11月末までに路面工事を行い、2月末までにセクション等の備品設置を行います。 ・令和5年3月のオープンを目指します。	【吉田ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞｾﾝﾀｰ】 ﾘﾆｭｰｱﾙｵｰﾌﾟﾝ	－	令和5年2月	令和5年2月26日	【吉田トレーニングセンター大規模改修】 コロナ禍の影響を受けて機械設備の納期遅延等により、11月下旬オープンが翌年2月26日オープンにずれ込んだものの、無事にオープンすることができました。 【スケートボード場整備】 有識者等の意見を参考に7月末までに設計を完了し、9月から翌年1月までを工期として契約を行いましたが、村上市の災害復旧作業に伴う職人の手配が出来なかったことや、11月の長雨や12月、1月の最強寒波等の影響を受け、3月末までの滑走面の仕上げ等が難しい状況となったため、工期を延長し5月のオープンを目指します。 運用面については、有識者や指定管理者と協議し、9月及び3月の議員協議会での説明を経て、他市の類似施設に比べても特に安全面に配慮した運用ルールを定めました。 ＜反省点・改善点＞ 監理業者・監督者と連携し、同一年度の設計、工事については天候等の状況によって、進捗状況が左右されるため、工程会議の回数を増やす等して逐次、工事の状況把握に努めます。	3
			【ｽｹｰﾄﾎﾞｰﾄﾞ場】 工事着工	－	令和4年8月	令和4年9月		
			【ｽｹｰﾄﾎﾞｰﾄﾞ場】 オープン	－	令和5年3月	令和5年5月		

〈評価区分〉 5:取組によって想定（目標値）以上の成果が得られた　4:取組のすべてを実施し、見込通りの成果をあげた（期待通りの成果物が得られた）　3:取組のすべてを実施した　2:取組方針等を策定した　1:協議・検討中